

二〇一四年二月二八日

古箏 高御座とす雛かな
心字池色とりどりの梅の影
屋根落つる雪解雫や峽の駅

はく子

さつき

よし子

二〇一四年二月二七日

紅白の神事の幕に東風強し

満天

二〇一四年二月二六日

霾るやゴーストタウンさながらに
堰音の高鳴りてより春めきぬ
伐採の切り株濡らす春の雨
雪解水折れし樋よりほとばしる
露天湯の谷へと辿る雪間路

菜々

雅流

三刀

なつき

治男

二〇一四年二月二五日

苑うらら百歳記念てふ植樹

はく子

二〇一四年二月二四日

散策の道に踏むまじいぬふぐり
雛の客へと開け放つ勝手口
機嫌よきペットボトルの風車

あさこ

なつき

満天

二〇一四年二月二三日

火が走り火守が走る野焼きかな
竹筒に勢揃ひせし豆雛
喝采の大道芸に風花す
号外を手渡す人の息白し

三刀

有香

こすもす

さつき

二〇一四年二月二二日

潮騒の間遠に聞こゆ梅の丘
高枝に絡むは風の千切れ糸
農道の轍ぐちやくちや春の泥
囀を道案内に園巡る

あさこ

つくし

宏虎

あさこ

毎日句会みのる選・二〇一四年三月二日